

第2回 篠原中学校 学校運営協議会

式次第

1. 会長あいさつ
2. 校長あいさつ
3. 議長選出
4. 前回会議録確認
5. 熟議（グループ協議）
 - （1）学校評価アンケートについて
 - ・ グランドデザインの達成度をはかるための「評価項目」が適切か
 - （2）校則改正の必要性について
 - ・ 生徒が「自己指導力」を身に付けるために、ふさわしい内容や入れた方がいい内容はあるか
 - ・ 靴の色の自由化を例に、校則を変えていくことが地域の目にはどのように映るか
6. 連絡
 - （1）部活動の地域展開について
 - （2）3年生面接練習について
 - 1月23日（金） 13:20～
 - 2月20日（金） 13:20～
 - （3）自己評価について
 - （4）次回開催日 1月26日（月）13:30～

日時：令和7年11月10日（月）

場所：篠原中学校 多目的室

令和7年度 篠原中学校運営協議会

委員

No.	氏 名	ふりがな	備 考
1	鈴木 幹夫	すずき みきお	保護司
2	太田 一夫	おおた かずお	R 2 篠原地区自治会連合会会長
3	河合 洋子	かわい ようこ	学校支援コーディネーター R 2 篠原中学校PTA会長
4	鈴木 幸子	すずき ゆきこ	R 7 篠原地区健全育成会会長
5	津田 順子	つだ じゅんこ	主任児童委員
6	鈴木 好治	すずき よしじ	R 3・4 連合自治会長
7	鈴木 登志雄	すずき としお	R 5 地区自治会長
8	鈴木 貴子	すずき たかこ	R 7 篠原中学校PTA執行役員
9	横井 詠子	よこい えいこ	R 6 篠原中学校PTA執行役員

学校

1	内山 安史	うちやま やすひと	篠原中学校長
2	太田 陽三	おおた ようぞう	篠原中学校 教頭
3	鈴木 一輝	すずき かずき	C S 担当教員
4	桔川 祐輝	きっかわ ゆうき	R 5・6 C S 担当教員
5	村松 佳寿子	むらまつ かずこ	C S ディレクター

令和7年度 第1回 篠原中学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年5月2日（金） 13時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 篠原中学校 多目的室
- 3 出席委員 鈴木 幹夫、太田 一夫、河合 洋子、鈴木 幸子、津田 順子
鈴木 好治、鈴木 登志雄、鈴木 貴子、横井 詠子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 小笠原 正幸（篠原協働センター長）
- 6 学 校 内山 安史（校長）、太田 陽三（教頭）、鈴木 一輝（CS担当教員）、
桔川 祐輝（生徒指導担当教員）、村松 佳寿子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 村松 佳寿子

9 会長の選出

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、太田委員から鈴木幹夫委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、河合委員が鈴木幹夫委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1） 令和7年度学校経営方針
- （2） いじめ防止等のための基本的な方針について
- （3） 夢育やらまいか事業意見書

12 会議記録

司会の鈴木一輝から、委員総数9人全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。委員に学校の様子を知ってもらうため、1年（体育）、2年（野外活動で披露するスタントの練習）、3年（体育祭で披露する演舞の練習）、5～9組（クラス活動）の様子を各5分程授業参観。その後、多目的室に戻って協議。

- （1） 令和7年度学校経営方針
- （2） いじめ防止等のための基本的な方針について

議長の指示により、校長から、資料に基づきグランドデザインとキャリア教育の説明があり、生徒指導担当教員の桔川から、別紙資料に基づきいじめ防止等のための基本的

な方針について説明があった。その後、3グループに分かれて協議。委員からは以下の発言があった。

【A グループ：太田委員、鈴木登志雄委員、鈴木幸子委員】

- ・学校の様子や行事、地域の方々がどのような活動に参加可能かを地域に知らせる事をもっとやった方が良い。地域を巻き込んだ活動ができたら良いと思う。
- ・学校の方針がよく分かった。不登校や不登校傾向の生徒がどのくらいいて、ケアはどうなっているのかも知りたい。

【B グループ：鈴木幹夫会長、津田委員、横井委員】

- ・縦割り活動が、声かけや認め合い、先輩後輩との縦の交流につながっており、いじめに向かうことなく良い方向にむかっている事が分かって良かった。
- ・校内まなびの教室や相談室などが活用されていて、良い意味で敷居が低い感じがするのが良い。登下校の際、中学生がよく挨拶してくれる印象。今後も生徒が相談しやすい体制を作っていってほしい。

【C グループ：河合委員、鈴木貴子委員、鈴木好治委員】

- ・部活動の地域移行になったら、休日の大会はどうなっていくのか。部活動が居場所になっている生徒のフォロー、学校以外でも認めてもらえる場面が増えると良い。
- ・リーダー研修、フォロワー研修は、指導できる方が地域にもいたら良いと思う。

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 夢育やらまいか事業意見書

議長の指示により、教頭から、資料に基づき夢育やらまいか事業についての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・コロナ前に、連合自治会が中学校で行っていた炊き出しや、コロナで取りやめになってしまった活動なども今後再開できたら良いと思う。(鈴木好治委員)
- ・発達支援学級の体験活動は、具体的にどのようなことを考えているのか知りたい。

(太田委員)

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和7年11月10日(月)午後1時30分から多目的室で開催する旨の報告があった。

第2回 学校運営協議会 熟議シート

① 熟議1 学校評価アンケートについて

テーマ グラウンドデザインの達成度をはかるための「評価項目」が適切か

MEMO

③ 熟議2 校則改正の必要性について

テーマ 生徒が「自己指導力」を身に付けるために、ふさわしい内容や入れた方がいい内容はあるか

靴の色の自由化を例に、校則を変えていくことが地域の目にはどのように映るか

MEMO



CONNECT
CHALLENGE
CREATE

第2回 篠原中学校 学校運営協議会 協議グループ

グループ	氏 名	ふりがな	備 考
A	鈴木 幹夫	すずき みきお	保護司
	鈴木 幸子	すずき ゆきこ	R5篠原地区健全育成会会長
	鈴木 登志雄	すずき としお	R5地区自治会長
	鈴木 貴子	すずき たかこ	R7PTA役員

グループ	氏 名	ふりがな	備 考
B	太田 一夫	おおた かずお	R2篠原地区自治会連合会会長
	河合 洋子	かわい ようこ	学校支援コーディネーター
			R2篠原中学校PTA会長
	津田 順子	つだ じゅんこ	主任児童委員
	鈴木 好治	すずき よしじ	R3・4連合自治会長

	氏 名	ふりがな	備 考
学校	内山 安史	うちやま やすひと	浜松市立篠原中学校校長
	太田 陽三	おおた ようぞう	浜松市立篠原中学校教頭
	鈴木 一輝	すずき かずき	R07CS担当
	桔川 祐輝	きっかわ ゆうき	生徒指導主事 R06CS担当
	村松 佳寿子	むらまつ かずこ	CSディレクター



★校区の目指す子ども像★

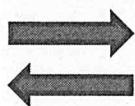
自信と活力にあふれ、進んで学びを求めていく子ども
家庭や地域に愛着を持ち、かかわりを大切にできる子ども

☆学校教育目標☆

共に理想を追求し、自己実現をめざす生徒

共生

(Connect)



自立

(Challenge)

- 自分らしさを大切にすることも
- 他者と協調し、主体的に行動できることも
- 自己調整しながら粘り強く取り組むことも

生きる力(Create)
キャリア教育の4つの力

人を大切にする力

集団活動の充実(伝統の縦割り活動)

MVG(最も価値のある集団)活動
縦割りを土台とした 体育大会 怒濤祭
学年経営の充実

チャレンジする力

学 び

- ・基礎基本の定着
- ・令和の日本型学校教育の実現
- ・ICTの有効活用
- ・プログラミング的思考の育成
- ・キャリア教育の視点での授業改善
- ・校内適応指導教室の充実

心

- ・道徳教育の充実
- ・「いのち」を大切にする教育の推進
- ・「あいさつ」の意識向上
- ・学校いじめ防止基本方針に基づく組織的な対応
- ・美しい環境づくり
- ・情報モラル教育の充実

協 働

- ・生徒会や縦割りによる自治活動の充実
- ・リーダー・フォロワー教育の充実
- ・SCやSSW等の関係機関との連携
- ・夢中になる部活動と地域移行への架け橋
- ・しのささ学習の充実

自分を大切にする力

考える力

生徒に寄り添う生徒指導
発達支援教育の理念を根幹とした教育

生徒・保護者・地域と学校の相互理解
～ 誰にとっても居心地のよい学校 ～
学校運営協議会との連携 部活動の地域移行

わたしたちに必要な 4つの力

(社会人になった時に求められる 資質・能力)

2025版



① 人を大切にする力 (人間関係形成・社会形成能力)

様々な人とつながる中で他の人の個性を理解したり、他の人に働きかけたりするコミュニケーションスキルや、チームワークをはかるのに欠かせないリーダーシップやフォロワーシップなどのことです。

- ☐ 友達や他学年と活動するとき、相手の考えや気持ちを受け止めようとする。
- ☐ 相手にわかりやすく伝わるように工夫しながら、自分の気持ちを整理して伝える。
- ☐ 集団の中で自分の役割や自分ができることに気づき、進んで動いたり、協力して行動したりする。

2 自分を大切にする力 (自己理解・自己管理能力)

自己の役割の理解や、主体的な行動のための動機付け、物事を前向きに考える力や忍耐力、ストレスと上手に付き合う力のことです。また、これからの成長のために進んで学ぼうとする力です。

- ☐ 自分の好きなことや得意なこと、苦手なことや嫌いなことを整理して、自分の現在の姿を把握する。
- ☐ 気が進まない活動や気分が沈んでいる時でも、気持ちに流されずやるべきことを考えて取り組む。
- ☐ 苦手な場面や不得意なことでも、自分の成長を考えて進んで取り組む。

③ 考える力 (課題対応能力)

情報の理解や選択、処理などの力、本質を理解したり原因を追究したりする力、課題を発見し、計画を立て、実行する力などです。

- ☐ わからないことやもっと知りたいことは、自分で情報を集めたり、他の人に進んで聞いたりする。
- ☐ 課題解決のための様々な方法を考え、よりよいやり方を選択して、解決しようとする。
- ☐ 先の見通しをもち、計画を立てて実行し、経験から気付いたことを生かして改善を試みる。

4 チャレンジする力 (キャリアプランニング能力)

学ぶことや働くことの意義や役割の理解、生き方の多様性の理解、将来を設計したり選択したりし、改善を繰り返しながら、いろいろなことに挑戦し行動していく力のことです。

- ☐ 自分の夢を実現するための方法を調べ、日々の生活や勉強の仕方を工夫する。
- ☐ 将来の自分の姿をイメージして学期や月ごとに具体的な目標を設定し、実現のための努力をする。
- ☐ 「学ぶこと」や「働くこと」の意義を考え、今学んでいることとのつながりを考える。

キャリア教育は、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく力をはぐくみます。大きくとらえると、授業や行事をはじめいろいろな活動を通して、これから社会の中で自分の人生を歩んでいくために必要な力を付けていくことです。



CONNECT
CHALLENGE
CREATE

※この4つの力は相互に関連しています。

学校評価アンケート（保護者用）

期間・・・11月21日（金）18:00～11月30日（日）23:59まで

さくら連絡網 本文

2学期も残すところ12月のみとなりました。学校では、3学期に向けて、学習面や生活面において2学期の振り返りが始まるところです。御家庭でも声掛けをよろしく願っています。

さて、今年度の学校評価アンケートを行います。来年度に向けて現在の教育活動の取組状況を把握し、今後の計画に活かしていきたいと思えます。お忙しい中申し訳ありませんが、御協力をよろしくお願いいたします。

なお、アンケートはお子様の学校生活の様子に関する質問が多くなっております。添付データの「グランドデザイン」「4つの力 2024 版」を参考に、お子様とお話をした上で、回答いただきますようよろしくお願いいたします。

締切は11月30日（日）までとさせていただきます。

設問	質問内容
1	家庭では、お子さんから授業や行事の話を聞いたり、学校での行事や説明会等に参加したりして学校の教育活動について把握している。
2	お子さんは、学校生活を楽しんでいる。
3	お子さんは、学校での授業を通して、家庭で満足できる学力を身につけている。
4	お子さんは、家庭で宿題以外の学習にも取り組んでいる。
5	お子さんは、さわやかにかいさつをしている。
6	お子さんは、学校の基本的な決まりを守っている。
7	お子さんは、体育大会や怒濤祭の行事を通して、仲間とともに活動する楽しさを実感している。
8	お子さんは、縦割活動を通して、集団に所属する充実感を感じている。
9	学校は、悩みがあった時、すぐに相談にのってくれる。
10	お子さんは、キャリア教育の4つの力を意識して学校生活を送っている。
11	学校での様々な活動において、お子さんの成長を実感している。
12	お子さんは、将来の夢や目標をもっている。
13	学校は、便りやホームページ、ブログなどを通して学校の情報を発信している。
14	篠原中は学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置しており、地域とともに特色ある学校づくりを進めようとしていることを知っている。
15	学校は、いじめの未然防止や早期発見、いじめが発生した際の迅速な対応に努めている。

学校評価アンケート（生徒用）

11月21日（金）タブレット持ち帰り 25日（火）回収

設問	質問内容
1	あなたは、学校生活を楽しいと感じている。
2	あなたは、学校での授業内容を理解し、その内容を身につけていますか。
3	先生は、わからないところや質問を丁寧に教えてくれますか。
4	あなたは、先生や級友の話をよく聴き、授業内容の理解を深めていますか。
5	あなたは、自分の意見や考えを相手に伝えるように発表、表現していますか。
6	あなたは、家で宿題以外の勉強をしていますか。
7	あなたは、さわやかなあいさつができていますか。
8	あなたは、学校の決まりを守っていますか。
9	あなたは、体育大会や怒濤祭などの行事を通して、仲間とともに活動する楽しさやうれしさを感じましたか。
10	あなたは、MVGに向けた縦割り活動を通して、充実感を感じていますか。
11	あなたは、学級での役割（委員、係、当番、清掃など）に進んで取り組んでいますか。
12	あなたは、学校や学級で互いの良さを認め合ったり、支え合ったりして活動していますか。
13	あなたは、悩みを相談できる相手がいいますか。
14	あなたは、学校で活動するときに、キャリア教育の4つの力を意識して活動していますか。
15	あなたは、4月の自分と比較して、キャリア教育の4つの力が一つでも身についたと感じますか。
16	あなたは、自分が決めたことは最後までやり遂げようとしていますか。
17	あなたは、自分に良いところがあると思いますか。
18	先生は、あなたの良さを認めてくれますか。
19	あなたは、将来の夢や目標をもっていますか。

学校評価アンケート（教員用）

期間・・・11月21日（金）18:00～11月30日（日）23:59まで

設問	質問内容
1	生徒は、学校生活を楽しいと感じている。
2	生徒は、学校での授業内容を理解し、その内容を身につけている。
3	あなたは、基礎・基本の定着を図るために指導方法や形態を工夫している。
4	あなたは、個に応じた支援を行っている。
5	生徒は、先生や級友の話をよく聴き、授業内容の理解を深めている。
6	生徒は、自分の意見や考えが相手に伝わるように発表、表現している。
7	生徒は、家で宿題以外の勉強をしていると思う。
8	生徒は、さわやかなあいさつをしている。
9	生徒は、学校の決まりを守っている。
10	生徒は、体育大会や怒濤祭などの行事を通して、仲間とともに活動する楽しさやうれしさを感じている。
11	生徒は、MVGにに向けた縦割り活動を通して、充実感を感じている。
12	生徒は、学級での役割（委員、係、当番、清掃など）に進んで取り組んでいる。
13	生徒は、互いの良さを認め合ったり、支え合ったりして活動している。
14	あなたは、生徒や保護者の話をよく聴いている。
15	生徒は、キャリア教育の4つの力を意識して学校生活を送っている。
16	生徒は、4月と比較して、キャリア教育の4つの力が身についてきている。
17	生徒は、自分で決めたことは最後までやり遂げるようにしている。
18	自己肯定感の高い生徒が多い。
19	あなたは、子ども一人一人の良い点や可能性を見つけ、子どもに伝えている。
20	あなたは、生徒に将来の夢や目標をもたせるように指導している。
21	学校は、いじめの未然防止や早期発見、いじめが発生した際の迅速な対応に努めている。

校則改正の必要性について

篠原中学校の校則には、靴の規定について「黒、白、紺を基調としたもの」という内容がある。先日行われた生徒協議会にて靴の色についての校則改正の必要性について議論を行ったところ、以下の意見が出た。

〈賛成意見〉

プライベートの靴と学校用の靴を使い分けるよりも無駄な費用がない。

個人の意見を尊重することができる。

他の中学では、いろいろな靴を使っている。

団Tシャツにはカラフルなような色が合うかもしれない。

〈反対意見〉

私生活と学校のメリハリをつけるために靴の区別が必要。

3年生の受験のときにカラフルな靴はふさわしくない。

地域の人達に悪いイメージを与えてしまうかもしれない。

「何でもあり」になってしまうと、何が正しい姿なのかを学ぶ機会がなくなってしまう。

熟議の視点

- ・生徒が「自己指導力」を身に付けるためにふさわしい内容や、入れた方がいい内容はあるか。

- ・靴の色の自由化を例に、校則を変えていくことが地域の目にはどのように映るか。

篠原中学校

登下校・校内生活での服装他

1 登下校時の服装

- ア 制服（雨がひどい時は各自の判断でジャージ登下校を可とする）
- イ 通学靴は運動靴（運動時・登校時は、同一の靴を使用する）
- ウ 休日の部活動は、制服、ジャージまたは部活動で指定された服装とする

2 通学方法

- ア 徒歩通学を原則とする。（バスを利用している生徒もいる）
- イ 右側通行を守り、歩道のある所は歩道を、歩道のない所は1列歩行を心がける
- ウ 通学路は北側を、小学校東側の通りは東側を1列で通行すること

3 所持品

- ア 教科書等の道具を入れる物は、指定の背負いカバン（ナップサック）とサブバッグとする
その他の入れ物は、原則として持ってこない
- イ 持ち物には、必ず記名する
- ウ 学習に必要な物（カッターナイフやはさみなどの刃物類・雑誌・遊び道具・菓子類、携帯電話など）は学校に持ってこない

4 服装等のきまり

- ア 制服について
 - 冬服・標準の学生服（黒） 学校指定のセーラー服 スカート プレザー（上下）
 - ※学生服、セーラー服、プレザー（ジャケット）の下に着用する衣料について
 - ・体操服、ワイシャツ、ポロシャツを着用する
 - ・プレザーについては、ワイシャツまたはポロシャツとする
 - ・ワイシャツについては白ならばメーカーは問わない
 - ・ポロシャツは学校指定のもの（shinohara の刺繍されているもの）も販売されているが、白ならばメーカーは問わない
 - （学校指定のポロシャツは肩の縫製が補強されており、ナップによっての劣化が少ない）
 - 夏服・標準の学生服（黒） 学校指定のセーラー服 スカート プレザーのスラックス
 - ・白色のワイシャツまたは開襟シャツ、ポロシャツ（学校指定のものもありますが、白ならばメーカーは問わない）ズボンは標準のものとする
 - ・セーラー服（白色の地で、ネクタイ・ラインは紺色）
 - セーラー服の丈は、裾とスカートの間があかない長さとする
 - ・スカート丈はひざが隠れることとする
- イ 靴下…白、黒、紺を基調としたもの
- ウ 靴……白、黒、紺を基調とした運動靴 ラインの色は特に問わない
 - ※誰が見てもはっきりと運動靴といえるもの（体育の授業に適した運動靴）
 - ※生地がやわらかく、足首までおおわれなもの
 - ※靴底が平らなもの（スニーカー）は不可とする
- エ ベルト…色は基本的には黒 派手でないものとする
- オ 校内服への着替えは、各自の判断で着替える 制服で生活してもよい

カ 冬の防寒具

○手袋・マフラー・スクールセーター・トレーナー・ベスト・コート・ウィンドブレーカー
を着用してもよい

キ 衣替え期間

○移行月と移行完了月を設ける

夏服：5月～6月（移行月） 7月（完了月）

冬服：9月～10月（移行月） 11月（完了月）

ク 携行品

・使い捨てカイロは使用可能 だだし、使用後は持ち帰ること

・傘の色は特に指定はないが、必ず記名をすること

※透明なビニール傘でも可

5 頭髪

ア 中学生らしく、運動や学習に適した髪型にする 脱色、染色等しない

イ 肩に髪がついたらゴムで縛る ヘアピンを使用してもよい

6 その他

ア 他教室には、原則として入らない 他学年の階には原則として行かない

イ 今後も生徒共に見直しを図っていきます

浜松市「休日の部活動の地域展開」に関するガイドライン（案）【概要版】

※記載内容については、今後の検討や来年度の予算の状況によって、変更・修正する可能性があります。

部活動改革の背景

- 少子化の進展や学校の働き方改革の推進により、これまでと同様の学校部活動の継続が困難
- 国の方針として、部活動の意義を継承・発展させた、新たな価値を創出する地域クラブ活動へ展開

スケジュール

- **令和8年9月以降、浜松市立中学校の休日部活動は地域クラブ活動へ移行**
- ※令和8年8月末で休日の部活動は原則終了（休日開催の一部大会については、学校部活動としての参加が可能）
- ※平日の学校部活動は継続、休日の移行が円滑に進んだ後に検討
- ※地域クラブの体制が整わない場合は、部活動指導員による部活動を経て地域クラブ活動へ移行

市が目指す地域クラブ活動＝「はまクル」

基本理念

- 「生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現」と「持続可能な活動環境の構築」

ターゲット

- 「活動を楽しみたい」、「上手になりたい」、「仲間や地域の方との交流を深めたい」という目的をもつ生徒
- ※勝利至上主義的な活動にならないよう、十分な配慮が必要

運営

- 営利を目的とした運営ではなく、できる限り低廉な参加費等を設定し、どの生徒も参加できるようにする

「はまクル」の趣旨に沿って市が定める要件を規約に明記して申請した団体やクラブ＝「はまクル認定クラブ」として登録

「はまクル認定クラブ」の概要

参加対象者

- 浜松市立中学校に在籍する生徒、浜松市の私立・県立・国立中学校に通学する生徒、浜松市内に在住の中学生が基本
- **希望するすべての生徒が参加可能**＝意欲や技能等を審査して選抜する方法（セレクション等）は禁止
- ※安全面、平日部活動との連携等の理由から、学校や地域を限定して対象者を制限することは可能
- 中学生を対象の中心に小学生や高校生、大人も含めた幅広い年代の参加が可能

5つの認定要件

- [1]基本理念に沿った活動の目的及び活動計画
- [2]複数の指導者や活動場所の確保等の指導体制
- [3]コンプライアンス意識の徹底を図るための方策
- [4]公正かつ適切な会計処理及び資金管理体制
- [5]活動中のけがや賠償等のための保険への加入

9つの活動指針

1. 運営団体・実施主体

- ・運営団体・実施主体は、中学校地域クラブ、スポーツ協会加盟団体、NPO法人、スポーツ少年団、総合型地域スポーツ・文化クラブ、民間事業者等を想定
- ・市民や地域団体、民間事業者等が、新たに団体を創設し、はまクル認定クラブとして活動を開始することも可能

2. 指導者

- ・指導者は、スポーツ・文化芸術活動の有資格者や経験者、保護者等を想定
- ・報酬等は、各クラブで適切な金額を決めることが可能
- ・指導を希望する浜松市立学校教員は、教育委員会の許可を得て従事することが可能
- ・「はまクル人材バンク」を設置し、適切な研修体制を構築

3. 活動内容（競技・種目、休養日、活動時間）

- ・部活動に設置していない競技・種目、文化活動等、多様なニーズに応じたクラブ活動が可能
- ・浜松市立中学校部活動運営方針に準じた活動
- ・原則として土日どちらか1日を休養日に設定
- ・1日の活動時間は3時間程度（大会等はその限りではない）

4. 活動場所（活動用具）

- ・原則として市立中学校の施設を活動場所に設定
- ・休日の昼間は、学校教育活動に支障のない範囲で、無償かつ優先的に使用
- ・学校備品の使用が可能（所定の借用願等で申請）
- ・中学校以外の公共施設を使用する場合は、他の一般団体と同様の手続きが必要

5. 大会・コンクール等への参加

- ・活動の成果発表の場である大会やコンクール等は、クラブ員の主体的な選択により、参加することが可能
- ・中体連夏季大会など一部大会は部活動での参加が可能
- ・はまクル認定クラブが部活動のどちらで大会に参加するかにについては、クラブ員の希望を尊重しつつ、学校（部活動）とクラブ側で連携、調整が必要

6. 費用

- ・受益者負担を基本とし、クラブ員や保護者等の理解のうえで、活動の維持・運営に必要な範囲で、各クラブが可能な限り低廉な参加費等を設定
- ・経済的に困難な家庭に対し、参加費等について適切に支援を行う取組を推進

7. 保険

- ・クラブ員や指導者は、自身のけが等を補償する保険と個人賠償責任保険に加入
- ・自転車利用者は自転車保険への加入が必須
- ・団体保険や争訟対応に関わる保険加入は各クラブ及び参加者の判断
- ・「浜松市学童等災害共済制度」の団体登録も可能

8. 学校との連携

- ・クラブと学校は、活動方針や活動状況、スケジュール等の共通理解や情報共有を積極的に実施
- ・特に学校に設置されている部活動の競技・種目のクラブは、大会の参加等、学校との密接な連携が必要
- ・活動中のクラブ員同士のトラブルや事故等について、保護者の了承を得つつ、学校に適切な情報を提供

9. 管理責任

- ・各クラブ及び指導者の活動時における安全配慮義務
- ・活動中に起こった事故やけが、トラブルは、各クラブの管理責任において適切に対応
- ・はまクル事務局内に、クラブの運営や創設に関わる相談窓口を設置

はまクル認定クラブの活動開始まで

はまクル認定クラブの運営をしたい方

- | | |
|-------------|--|
| 指導者・スタッフの配置 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 代表者（指導者との兼務可）及び会計担当者（指導者との兼務可）、指導者を配置し、最低2名以上で構成 ◇ 指導者が複数のはまクル認定クラブでの指導を行うことも可能 ◇ 代表者は、平日の部活動を担当する教員も含め、指導を望まない方に参加を強いることがないように十分に配慮 |
| 申請に必要な書類 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ はまクル認定クラブ認定（更新）申請書（第1号様式） ◇ クラブ員名簿（第2号様式） ◇ クラブ規約 ◇ クラブで使用する金融機関の口座番号が分かる書類 ◇ クラブ員及び指導者の保険加入が分かる書類 <p>※令和8年4月中旬より、認定申請開始予定</p> |

はまクル認定クラブに指導者として参加したい方

- | | |
|---------------|---|
| 指導者として活動する条件等 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 「クラブ代表者からの直接依頼」と「指導者等を希望するクラブに人材バンクを通じて派遣」の2つの方法で指導可能 ※どちらの場合も「はまクル人材バンク」に登録することが必須 ◇ 指導者として必要な資格等は特にないが、各種指導者資格の取得は推奨 ◇ すべての指導者は、活動の開始までに本市指定の研修（主に研修動画の視聴）を受講することが必須 |
| 活動中の指導 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 体罰、暴言や暴力、ハラスメント等の行為の禁止 ◇ 体罰と水分補給の時間を確実に設定 ◇ 暴風雨や落雷の危険性がある場合は活動中止 ◇ 緊急事態の場合は、躊躇なく警察や消防等へ通報 |

はまクル認定クラブの活動に参加したい生徒、保護者の方

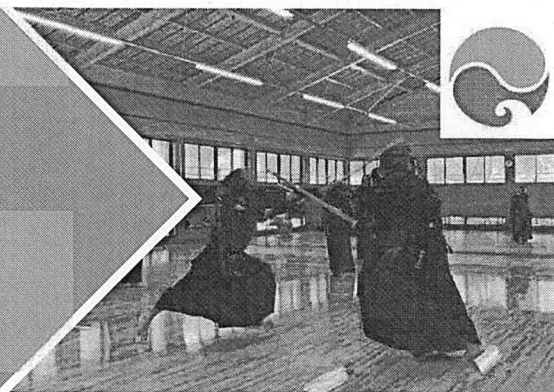
- | | |
|------|--|
| 参加方法 | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 市ホームページ（ポータルサイト）で各クラブの活動方針、活動場所、参加費等を確認 ◇ 各家庭から直接クラブ担当者に、入会や体験・見学の意思を連絡 |
|------|--|

問い合わせ先 浜松市教育委員会 学校・地域連携課 部活動地域展開グループ

TEL 053-457-2405 E-mail:chiikitenkai@city.hamamatsu-szo.ed.jp

10/24（金）に 浜松市「休日の部活動の地域展開」に関する ガイドライン（案）が公表されました！

浜松市では、市立中学校の休日の部活動を、令和8年9月以降、
地域クラブ活動へ移行していきます。浜松市が目指す地域クラブ活動
「はまクル」について、市民の皆様向けの説明会を開催します！



浜松市「休日の部活動の地域展開」 市民向け説明会

浜松市の中学校部活動の地域展開に関心のある方は、どなたでも参加できます！

日程	会場	時間（開場時間 18：30）
☐ 11月14日（金）	【天竜区】天竜壬生ホール 第1・第2会議室	19：00～20：00
☐ 11月21日（金）	【中央区】可美公園総合センター 第1研修室	19：00～20：00
☐ 11月26日（水）	【中央区】浜松アリーナ 第1会議室	19：00～20：00
☐ 11月28日（金）	【浜名区】みをつくし文化センター 大研修室	19：00～20：00
☐ 12月5日（金）	【浜名区】浜北文化センター 第1練習室	19：00～20：00
☐ 12月12日（金）	【中央区】あいホール 301、302号室	19：00～20：00

※全体での説明時間は約30～40分となります。その後、個別に質問や相談を受ける時間を設けます。

※お車で越しになる方は、説明会会場の駐車場（一部有料）をご利用ください。近隣の商業施設等には、
駐車しないでください。

※自然災害等により、説明会を中止する場合があります。その場合は、市ホームページにてお伝えします。



浜松市「休日の部活動の地域展開」

【主な説明内容】

- ・部活動の地域展開の経緯、浜松市の方向性
- ・浜松市が目指す地域クラブ活動「はまクル」とは？
- ・はまクル認定クラブの活動指針
- ・はまクル認定クラブにかかわるには？

【説明会への参加方法】

- ・右の2次元コードを読み取り、必要事項を入力して申し込み完了となります。
（複数名で参加される方も、お手数ですが1名ずつお申込みください。）
- ・申し込み後のキャンセル等の連絡は不要です。
- ・事前申し込みをされていなくても、当日の参加が可能です。（ただし席に限りがあります。）



👉 説明会申し込み

クラブ団体、指導者向けの個別相談も受け付けます！

○認定クラブの創設、既存クラブからの移行を考えている方、指導者や運営スタッフとして携わりたい方などは、以下のお問い合わせ先にご連絡ください。

お問い合わせ 浜松市教育委員会 学校・地域連携課 部活動地域展開グループ 053-457-2405

(様式2)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

委員名 ()

＜本年度の目標＞

- ・ さくら連絡網やブログ、便りなどを通してコミュニティスクールに関する情報発信を様々な角度からすることで、保護者や地域への認知度を高める。
- ・ 地域人材を生かした事業の拡大（生き方講座・授業への人材活用）をしていく。
- ・ 部活動の地域移行について熟議をしながら、方向性を探っていく。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

＜評価項目4＞ 今年度の評価を踏まえた来年度の目標